

図書館・情報学の基本雑誌

Basic Journals of Library and Information Science

緑川 信之  
*Nobuyuki Midorikawa*

*Résumé*

Journals of library and information science have been ranked by three methods, i. e., a citation counting, counting the number of articles contained in index or abstract journals, a questionnaire to researchers. In this paper, some studies on ranking library and information science journals are reviewed, and a citation counting is carried out using the *Journal Citation Reports* (SSCI).

- I. はじめに
- II. 引用分析による順位
  - A. *Journal Citation Reports* による調査
  - B. 従来の調査
  - C. 考察
- III. 引用分析以外の方法による順位
  - A. 索引・抄録誌への収録論文数
  - B. 研究者への質問
  - C. 考察
- IV. 和雑誌の順位
- V. おわりに

I. はじめに

図書館・情報学の雑誌は、今日では相当な数のものが出版されている。Johnson のレビューによると、今世

紀の初めには17誌であった図書館学の雑誌が、1946年までに169誌にふえ、さらに、1947年から1966年までの間に306誌が加わっている。そして、1981年版の *Ulrich's International Periodicals Directory* の「図書館・情報

緑川信之：図書館情報大学助手，茨城県筑波郡谷田部町春日 1-2  
Nobuyuki Midorikawa, Assistant, University of Library and Information Science, Yatabe-machi, Ibaraki-ken, Japan

図書館・情報学の基本雑誌

学」の項には、950誌がリストされているという<sup>1)</sup>。

一方、数の増加にともない、専門分化も進んでいる。Melin は、図書館学の雑誌が専門分化してきたこと的主要原因として、図書館の数がふえ多様化してきた、図書館の仕事が専門分化してきた、図書館間の相互協力がさかんになり新しい動きが出てきた、図書館員が学習・研究を行うようになってきた、商業出版社が乗り出してきた、などの点をあげている<sup>2)</sup>。これに情報学が加わった図書館・情報学の雑誌の専門分化はもっと著しいといえよう。

このような数の増加と専門分化の進む図書館・情報学の雑誌の中で、常に目を通しておく必要のある基本的な雑誌を確認することが本稿の目的である。ここでは、*Social Sciences Citation Index/Journal Citation Reports* (以下 JCR と略す) の1982年版を用いて、図書館・情報学の雑誌の引用度順位を調査した。それに関連して、これまでになされてきた図書館・情報学の雑誌の引

用度順位の調査をレビューした。また、引用分析以外の調査、すなわち、索引・抄録誌への収録論文数による順位および研究者への質問による順位に関する調査もレビューした。

II. 引用分析による順位

A. *Journal Citation Reports* による調査

図書館・情報学の基本雑誌を確認するために、JCR (1982) を用いて引用分析を行った。

JCR は *Social Sciences Citation Index* の一巻で、雑誌の各種引用統計が集計され、表の形でまとめられている。この JCR の1982年版には、図書館・情報学のカテゴリーのもとに48の雑誌がソース誌として収録されている。そこで、この48誌を今回の調査の対象とした。この48誌はすでに *Index* の編集者によって選ばれた雑誌であり、それ自体基本雑誌といえるものであるが、その中でさらに基本的なものを調べようというわけである。

第1表 引用分析による図書館・情報学雑誌の順位 (1~24)

|                       | J C R | 齋 藤 | 久保田 | Brace | Saracevic |
|-----------------------|-------|-----|-----|-------|-----------|
| J Am Soc Inf Sci      | 1     | 2   | 4   | 5     | 1         |
| Libr J                | 2     | 1   | 3   | 1     |           |
| Coll & Res Libr       | 3     | 5   | 13  | 3     | 4         |
| J Doc                 | 4     | 3   | 10  | 12    | 7         |
| Inf Proc & Manag      | 5     | 6   |     |       | 18        |
| J Acad Libr           | 6     |     |     |       |           |
| Special Libr          | 7     | 11  | 5   | 7     | 2         |
| Database              | 8     |     |     |       |           |
| Bull Med Libr Assoc   | 9     | 15  | 2   | 17    | 15        |
| Online                | 10    |     |     |       |           |
| Annu Rev Inf Sci Tech | 11    |     | 15  |       |           |
| Aslib Proc            | 12    | 16  | 7   | 20    | 7         |
| Libr Quarterly        | 13    | 7   | 11  | 4     |           |
| Libr Trends           | 14    | 12  | 9   | 6     | 11        |
| Libr Res & Tech Serv  | 15    | 10  | 20  | 9     | 7         |
| Online Rev            | 16    |     |     |       |           |
| Nau-T Inf 2           | 17    |     |     |       |           |
| Int Classif           | 18    |     |     |       |           |
| Unesco J Inf          | 19    |     | 18  |       |           |
| Wilson Libr Bull      | 20    | 18  | 6   | 11    |           |
| Libr Acquis           | 21    |     |     |       |           |
| J Chem Inf Comput Sci | 22    | 9   |     | 13    | 5         |
| Libri                 | 23    | 14  |     |       |           |
| Nau-T Inf 1           | 24    |     |     |       |           |

そこで、この48誌に順位付けを行う。順位は、引用された回数（以下、引用度とよぶ）の多いものを1位とする。ところで、*JCR* には、引用度やそれによる順位が示されている。しかし、その引用度は、*JCR* にソース誌として収録されているすべての雑誌からの値であり、必ずしも図書館・情報学の雑誌だけに引用された値ではない。したがって、その順位も、図書館・情報学の中での順位とは異なってくる可能性がある。

そこで、図書館・情報学の雑誌48誌だけを取り出し、その引用関係をあらためて調べなおした。そして、48誌の各々が、自誌以外の47誌に引用された回数を集計した。こうすれば、純粹に図書館・情報学の雑誌だけに引用された回数が求められる。なお、自誌引用も除いている。こうして得られた引用度の値をもとに順位付けを行った。

結果は第1表と第2表に示されている。便宜上、上位24誌（第1表）と下位24誌（第2表）とに分けてある。

なお、この表には、次の節で述べる、従来の引用分析の結果も示されている。ここで行った *JCR* による調査の結果は、第1表および第2表の「*JCR*」と記した欄に示されており、誌名はその順に並べられている（フル・タイトルと創刊年を付表に示しておいた）。

今回の調査で最も引用度が高かったのは *Journal of the American Society for Information Science* で、2位は *Library Journal* である（第1表）。

## B. 従来の調査

前節で述べた調査は *JCR* の収録誌48誌に限定されていた。しかし、この48誌以外にも、図書館・情報学において常に目を通しておくべき雑誌があるかもしれない。また、*JCR* による調査の信頼性も確かめる必要がある。この2点を調べるために、引用分析による雑誌の順位付けで、これまでになされてきた調査を比較した。

(1) 斎藤の調査<sup>3)</sup>

第2表 引用分析による図書館・情報学雑誌の順位 (25~48)

|                     | J C R | 齋藤 | 久保田 | Brace | Saracevic |
|---------------------|-------|----|-----|-------|-----------|
| RQ                  | 25    |    |     |       |           |
| Zeit Bibl Bibl      | 26    |    |     |       |           |
| Scientometrics      | 27    |    |     |       |           |
| J Inf Sci           | 28    |    |     |       |           |
| J Educ Libr         | 29    |    |     | 14    |           |
| Am Archiv           | 30    |    |     |       |           |
| Nach Dokum          | 31    |    |     |       |           |
| Datamation          | 32    |    |     |       | 11        |
| IFLA J              | 33    |    |     |       |           |
| Program; Auto Libr  | 34    |    |     |       | 11        |
| J Libr              | 35    |    |     |       |           |
| Social Sci Inf      | 36    |    |     |       |           |
| Serials Libr        | 37    |    |     |       |           |
| Drexel Libr Quart   | 38    |    |     |       | 18        |
| Proc Am Soc Inf Sci | 39    |    |     |       |           |
| Scholar Pub         | 40    |    |     |       |           |
| J Pat Office Soc    | 41    |    |     |       |           |
| J Libr Hist         | 42    |    |     |       |           |
| Can Libr J          | 43    |    |     |       |           |
| Comput Network      | 44    |    |     |       |           |
| Int Libr Rev        | 45    |    | 11  |       |           |
| Rev Pub Data Use    | 46    |    |     |       |           |
| Can J Inf Sci       | 47    |    |     |       |           |
| Inf Age             | 48    |    |     |       |           |

英米の図書館・情報学の主要誌15誌を選び、1976年から遡って各雑誌50論文を対象とし、その引用文献(750論文, 10172引用)を調べている(1976年のものだけで50論文を満している雑誌もあれば、1974年の論文まで含まれている雑誌もある)。この15誌の引用文献中に最もよく出てくる雑誌を1位、その次を2位、として順位付けを行っていく。

結果は、第1表、第2表、および第3表の「斎藤」の欄に示されている。第1表と第2表は、前述のように、*JCR*による順位にもとづいて並んでいる。第3表には、*JCR*の収録誌以外で、従来の調査において上位を占めている雑誌が示されている。ただし、従来の調査に対しては、上位20誌までしか示していない(以下同じ)。

斎藤の調査で、1位は *Library Journal*、2位は *Journal of the American Society for Information Science* である(第1表)。これは、*JCR*の調査における1位と2位が入れ代わった形である。

#### (2) 久保田の調査<sup>4)</sup>

久保田は、慶應義塾大学文学部図書館・情報学科に、昭和48年度および49年度の2ヶ年の間に提出された学部学生の卒業論文を対象に、その引用文献を調べている。論文数は113、引用文献数は3996である。この引用文献中で、数の多い雑誌から順位付けを行っている。なお、和雑誌と洋雑誌に分けて順位付けを行っているが、和雑誌については後の章で扱う。

結果は、第1表、第2表、第3表の「久保田」の欄に示されている。1位は *Bookbird* (第3表)、2位は *Bulletin of the Medical Library Association* (第1表) である。

#### (3) Brace の調査<sup>5)</sup>

Braceも学位論文を対象としているが、こちらは米国の14校のLibrary Schoolに、1961年から1970年の間に提出された202論文を調べている。その引用文献20298件のうち、数の多い雑誌から順位を付けている。

結果は、第1表、第2表、第3表の「Brace」の欄に示されている。1位は *Library Journal* (第1表)、2位は *American Libraries* (第3表) である。

#### (4) Saracevic の調査<sup>6)</sup>

Saracevicは、*Annual Review of Information Science and Technology*の第5巻(1969年)を対象に調べている。これは年1回発行されるレビュー文献で、この巻には13の章が設けられている。この13の章に記載されている1331件の引用文献の中で、最もよく出てくる雑誌

から順位付けを行っている。ただし、自誌、すなわち *Annual Review* は除外している。

結果は、第1表、第2表、第3表の「Saracevic」の欄に示されている。1位は *Journal of the American Society for Information Science*、2位は *Special Libraries* (第1表) である。

### C. 考察

#### (1) *JCR*による調査の信頼性

まず、今回*JCR*を用いて行った調査の信頼性を調べるために、従来の調査の結果と比べてみよう。

第1表には、*JCR*の収録誌のうち引用度の高い雑誌が示されている。同じく第2表には引用度の低い方の雑誌が示されている。そして、従来の調査で上位20誌に入っていた雑誌は、第1表にはよく現われているが、第2表にはほとんど現われていない。このことは、*JCR*で上位になった雑誌は、従来の調査でも上位であったことを示している。

*JCR*では上位24誌の中に入っている雑誌(第1表)で、従来の調査には1度も20位以内に入っていないもの多くは、1974年以降に創刊された雑誌である。すなわち、*Journal of Academic Librarianship* (1975)、*Database* (1978)、*Online* (1977)、*Online Review* (1977)、*International Classification* (1974)、*Library Acquisitions* (1977) である。従来の調査で最新のデータは、斎藤が用いた1976年の雑誌によるものであるから、1974年以降に創刊されたこれらの雑誌が、従来の調査においてあまり、あるいはまったく、引用されていないのは当然といえる。また、*Nauchno-Tekhnicheskaya Informatsiya*の1と2は、創刊は1967年であるが、ロシア語の雑誌なので上位に出てきていないのであろう。*Annual Review of Information Science and Technology*も、Saracevicの調査では、それ自身が調査対象となっているため考察外におかれている。これら特別の理由によるものを除けば、*JCR*の中で上位に出てくる雑誌は、すべて従来の調査でも上位に出てきていることがわかる。

一方、*JCR*で下位になった雑誌は、従来の調査でもあまり上位には出てきていない。もちろん、この中には創刊の新しいものも含まれているが、多くは1969年以前の雑誌である(1975年以降が8誌、残り16誌はすべて1969年以前)。

このように、創刊が新しいなどの特別の理由がある雑誌を除けば、今回の*JCR*による順位と、従来の調査に

おける順位とはよく一致していることがわかる。すなわち、*JCR* の調査の信頼性は確認されたといえる。

もちろん、すでに述べたように、*JCR* に収録されている雑誌は、それ自身、選ばれた雑誌であり、重要な雑誌であるが、その中でも上位に来る雑誌は特に重要な、基礎的雑誌といえるであろう。

(2) *JCR* に収録されていない雑誌

*JCR* で上位にでてきた雑誌は従来の調査でも上位であり、*JCR* で下位の雑誌は従来の調査でも下位であった。しかし、*JCR* に収録されていない雑誌については何もいえない。そこで、*JCR* には収録されていないが、従来の調査で上位に出てくる雑誌についてみることにする(第3表)。

まず、従来の4つの調査のうち3つに出てくるのが *Science* である。この雑誌は、もちろん図書館・情報学固有の雑誌ではない。そのため、*JCR* の図書館・情報学のカテゴリーには収録されていない。しかし、この結果からみる限り、図書館・情報学においても非常によく引用されており、無視しえない雑誌といえそうである。

*American Libraries* は、2つの調査に出てきている。しかも、その順位はきわめて高い(2位と4位)。この雑誌は *American Library Association* の機関誌で、図書館・情報学の雑誌にまちがいないが、*JCR* には収録されていない。これは、この雑誌が広報誌で、研究論文を掲載していないため引用文献が含まれていないので、*JCR* のソース誌にはならなかったと思われる。

その他、2つの調査に共通して出てくる雑誌は、*Journal of Library Automation* と、*Library Association Record* である。後者は *Library Association* (英国) の機関誌である。

第3表の残りの雑誌は、各調査の特殊性を反映しているように思われる。久保田は慶應大学文学部図書館・情報学科の卒業論文を対象としているが、*Bookbird*, *Top of the News*, *Horn Book Magazine* という児童関係の雑誌が多く出てきている。また、*Journal of Medical Education* もみられるが、彼女の調査の第2位が *Bulletin of the Medical Library Association* であったこと(第1表)とも合わせると、医学関係もかなり引用を

第3表 引用分析による図書館・情報学雑誌の順位(その他)

|                       | 齋藤 | 久保田 | Brace | Saracevic |
|-----------------------|----|-----|-------|-----------|
| Am Libr               | 4  |     | 2     |           |
| Science               | 8  | 17  | 10    |           |
| Commun ACM            | 13 |     |       |           |
| J ACM                 | 17 |     |       |           |
| J Libr Auto           | 19 |     |       | 6         |
| LC Inf Bull           | 19 |     |       |           |
| Bookbird              |    | 1   |       |           |
| Top of the News       |    | 8   |       |           |
| Horn Book Magazine    |    | 14  |       |           |
| J Med Educ            |    | 16  |       |           |
| Libr Assoc Rec        |    | 19  | 15    |           |
| News Notes Calif Libr |    |     | 8     |           |
| Public Libr           |    |     | 16    |           |
| Calif Libr            |    |     | 18    |           |
| Chem Engineering News |    |     | 19    |           |
| Book Produc Industry  |    |     |       | 3         |
| Bell Lab Rec          |    |     |       | 10        |
| Harv Busin Rev        |    |     |       | 14        |
| IEEE Comput Gr News   |    |     |       | 15        |
| Bus Automation        |    |     |       | 17        |
| Nat Microf Assoc J    |    |     |       | 18        |

集めていることがわかる。実際、調査対象となった昭和48年度と49年度の2年間において、113の卒論のうち、児童関係が16.8%、医学関係が11.5%とかなりの割合を占めている<sup>4)</sup>。それが引用文献にも反映されてこのような結果になっているのであろう。

Brace は米国の Library School の学位論文を調べている。そのため、*News Notes of California Libraries* や *California Librarian* のような地域的な雑誌が出てきているのであろう。表には示していないが、もっと下位になると、このような地域的な雑誌がたくさん出てくる。

Saracevic は *Annual Review of Information Science and Technology* を調べている。これはレビュー誌で、年1回発行される。調査対象の1969年には13編のレビューが掲載されている。誌名からわかるように、図書館学寄りの雑誌というよりは情報学寄りの雑誌である。13編の中には、図書館/情報システムの管理や自動化に関するものが多く、そのため、*Harvard Business Review*, *Business Automation*, *Journal of Library Automation* などの雑誌が出てきているのであろう。

斎藤の調査は、英米の図書館・情報学の雑誌15誌を対象としており、英米に限定されていることを除けば、他の3つの調査に比べて最も偏りが少ない。実際、他の調査との重なりも多く (*American Libraries*, *Science*, *Journal of Library Automation*), *JCR* による順位と最もよく似ている (第1表)。

以上のように、調査の対象が異なると下位の方はその特殊性が反映されてくる。しかし、すでにみたように、上位の雑誌は、順位は多少異なるが、調査対象の違いに

もかかわらずよく一致している。

### III. 引用分析以外の方法による順位

前章では引用分析によって雑誌の順位を出したが、1つの方法だけでなく、いろいろな側面からみることも必要である。この章では、引用分析以外の方法として、索引・抄録誌への収録数の分析および研究者への質問という2つの方法で行われた調査を紹介する。

#### A. 索引・抄録誌への収録論文数

引用分析以外の方法で、図書館・情報学の雑誌に順位づけを行った調査の1つに、索引・抄録誌に収録された論文の数をういたものがある。もちろん、掲載論文数の多い雑誌ほど収録される論文の数も多くなる可能性があり、収録論文数が多いからといって重要な雑誌と決めつけることはできない (同じことは、引用分析にも多かれ少なかれあてはまる)。しかし、掲載論文数が多いからといって、すべてが索引・抄録誌に収録されるとは限らないし、また、掲載論文数が多いということ自体、その雑誌の存在意義を示しているとも考えられる。従って索引・抄録誌への収録数も、雑誌の重要度を知る上で参考になるであろう。

この種の調査には、図書館学の索引・抄録誌を調べたものと、情報学のそれを調べたものがあり、対照的で興味深い。

図書館学の側の調査は、Saracevic と Perk によるもので、索引誌 *Library Literature* を用いている<sup>7)</sup>。彼らは、1967年版 *Library Literature* に収録された4418編の雑誌論文の中から、ニュース記事、会議報告、レタ

第4表 索引・抄録誌への収録数による図書館・情報学雑誌の順位

| Saracevic; Perk |                      | Pope                    |
|-----------------|----------------------|-------------------------|
| 1.              | Libr J               | J Chem Doc (J Chem ICS) |
| 2.              | Pub Weekly           | Special Libr            |
| 3.              | Wilson Libr Bull     | Sci Inf Notes           |
| 4.              | Bull Med Libr Assoc  | Libr Res & Tech Serv    |
| 5.              | ALA Bull (Am Libr)   | Am Doc (JASIS)          |
| 6.              | LC Inf Bull          | Libr J                  |
| 7.              | Ill Libr             | Datamation              |
| 8.              | Libr Trends          | Commun ACM              |
| 9.              | Libr Assoc Res       | Coll & Res Libr         |
| 10.             | Libr Res & Tech Serv | Nau-T Inf               |

一などを除いた3420編の論文を対象に、その掲載雑誌の内訳を調べている。ここでは、収録された論文数の多い雑誌を、上位から10誌まで示した(第4表左)。1位は *Library Journal*, 2位は *Publishers Weekly* である。

情報学の側の調査は Pope によるものである<sup>8)</sup>。彼は、*Bibliography of Information Science and Technology* の1964年9月から1970年1月までに収録された文献14290編のうち、雑誌論文7386件を対象に、その掲載雑誌の内訳を調べている。ここでは、やはりその上位10誌をリストした(第4表右)。1位は *Journal of Chemical Documentation* (現在の *Journal of Chemical Information and Computer Sciences*) で、2位は *Special Libraries* である。

B. 研究者への質問

重要な雑誌を調べるために用いられるもう1つの方法は、研究者自身に、彼らが利用している雑誌について質問することである。これには、Hanson と Tilbury の調査<sup>9)</sup>、および、Dansey の調査<sup>10)</sup>がある。

Hanson と Tilbury は、1962年の Aslib 年次大会の出席者に対して、普段よく目を通す雑誌、および好ましい(welcom)雑誌の両方について質問を行った。まず、普段よく目を通す雑誌を誌数に制限なくあげてもらい、その数の多い順にリストしたのが、第5表左端である。1位は *Aslib Proceedings*, 2位は *Journal of Documentation* である。次に、好ましい雑誌を3誌まであげ

てもらって、その数の多い順にリストしたのが、第5表中央である。1位と2位は、普段よく目を通す雑誌と同じである。3位以下には相違がみられる。

Dansey は、Institute of Information Scientists の第5回コンファレンス(1972)の出席者に対し、常に読んでいる雑誌と時々読む雑誌とをあげてもらい、その合計数の多い順に雑誌をリストしている(第5表右端)。1位は *Information Scientist*, 2位は *Aslib proceedings* である。

C. 考察

(1) 索引・抄録誌への収録論文数

まず、*Library Literature* の収録論文数を調べた Saracevic と Perk のリストと、*Bibliography of Information Science and Technology* の収録論文数を調べた Pope のリストとを比べると(第4表)、この2つのタイトルからも予想されるように、前者には図書館学系の雑誌が上位に多く出てきており、後者には情報学寄りの雑誌が多い。このうち、両者に共通しているのは、*Library Journal* と *Library Resources & Technical Services* である。*Library Journal* はかなり図書館学色の強い雑誌だと思われるが、情報学系の書誌にも多くの論文が収録されていることがわかる。

次に、この結果を、*JCR* を用いた引用分析の結果と比べてみよう。*JCR* の調査の上位24誌(第1表)の中で、Saracevic と Pope のリストにも出てきているのは、

第5表 研究者への質問による図書館・情報学雑誌の順位

| Hanson; Tilbury       |                  | Dansey           |
|-----------------------|------------------|------------------|
| 普段目を通す雑誌              | 好ましい雑誌           |                  |
| 1. Aslib Proc         | Aslib Proc       | Inf Scientist    |
| 2. J Doc              | J Doc            | Aslib Proc       |
| 3. Unesco Bull Libr   | Libr Assoc Res   | J Doc            |
| 4. Libr Sci Abs       | Am Doc           | Inf Stor & Retr  |
| 5. Special Libr       | Unesco Bull Libr | J Am Soc Inf Sci |
| 6. Am Doc             | J Chem Doc       | J Chem Doc       |
| 7. Rev Int Doc        | Libr Sci Abs     | Special Libr     |
| 8. Coll & Res Libr    | Special Libr     | Libr Assoc Rec   |
| 9. Libr Trends        | Assistant Libr   | Program          |
| 10. Libr J            | Libr J           | Unesco Bull Libr |
| 11. Libr Quarterly    | Microdoc         | NLL Rev          |
| 12. Libr Res & Tech S | Coll & Res Libr  | Coll & Res Libr  |
| 13. Libri             | Libr World       | Micrographics    |

図書館・情報学の基本雑誌

*Library Journal*, *Wilson Library Bulletin*, *Bulletin of the Medical Library Association*, *Library Trends*, *Library Resources & Technical Services* の5誌である。また、Pope のリストに出ているのは、*Journal of Chemical Documentation* (*Journal of Chemical Information and Computer Sciences* の前身), *Special Libraries*, *Library Resources & Technical Services*, *American Documentation* (*Journal of the American Society for Information Science* の前身), *Library Journal*, *College & Research Libraries*, *Nauchno-Tekhnicheskaya Informatsiya* の7誌である。

図書館学系の上位10誌中5誌が、そして、情報学系の上位10誌中7誌が、*JCR* の上位24誌と一致している。さらに、Saracevic と Perk のリストに *ALA Bulletin* (*American Libraries* の前身) と *Library Association Record* が出ているが、この2誌は *JCR* には収録されていないが、従来の引用分析でよく上位に出てきた雑誌である(第3表)。このように、引用分析と索引・抄録誌の分析という異なった方法にもかかわらず、上位の雑誌はよく一致しているといえる。

(2) 研究者への質問

まず、Hanson と Tilbury のリストと Dansey のリストをみると(第5表)、どちらも英国の研究者が多く含まれている会議の参加者に対して行った質問なので、上位3誌はほとんど英国の雑誌で占められている (*Aslib Proceedings*, *Journal of Documentation*, *Information Scientist*)。また、全体的にみて、どちらかといえば情報学寄りである(特に Dansey)。

*JCR* の上位24誌と比べると、やはり多くの雑誌が一致していることがわかる。Hanson と Tilbury の普段目を通す雑誌では13誌中11誌 (*Library Science Abstracts* と *Revue Internationale de la Documentation* を除く) が一致し、同じく好ましい雑誌では13誌中8誌が一致している。また、Dansey のリストでは、やはり13誌中8誌が一致している。このように、研究者に対する質問でも、引用分析による上位の雑誌が基礎的であることを裏づけることができる。

なお、誌名が変更されたものもある：*Unesco Bulletin for Libraries*→*Unesco Journal of Information Science*, *Librarianship and Archives Administration* (1983年

第6表 引用分析による図書館・情報学雑誌の順位

| 齋 藤                    | 久保田                    |
|------------------------|------------------------|
| 1. 図書館雑誌               | 1. 図書館雑誌               |
| 2. 図書館界                | 2. 情報管理                |
| 4. ドクメンテーション研究         | 3. 週刊読書人               |
| 5. 情報管理                | 4. 医学図書館               |
| 9. 現代の図書館              | 5. 特殊通信                |
| 9. <i>Libr Inf Sci</i> | 6. 特許管理                |
| 11. 医学図書館              | 7. ドクメンテーション研究         |
| 11. 丸善ライブラリー・ニュース      | 8. 図書館界                |
| 16. 学術月報               | 9. <i>Libr Inf Sci</i> |
| 19. びぶろす               | 10. 現代の図書館             |
| 19. 図書館評論              | 11. 学術月報               |
| 22. 学校図書館              | 11. 筑波新大学ニュース          |
| 24. 大学図書館研究            | 13. 日本児童文学             |
| 24. 建築文化               | 14. 科学技術文献サービス         |
| 24. 専門図書館              | 14. 専門図書館              |
| 27. 薬学図書館              | 16. ひびや                |
| 28. 図書館学会年報            | 16. 薬学図書館              |
| 31. 科学技術文献サービス         | 16. 国立国会図書館年報          |
| 32. こどもの図書館            | 19. 学校図書館              |
| 32. 国立国会図書館月報          | 20. びぶろす               |

に廃刊); *American Documentation*→*Journal of the American Society for Information Science*; *Journal of Chemical Documentation*→*Journal of Chemical Information and Computer Sciences*; *Information Storage & Retrieval*→*Information Processing & Management*. ついでに言うと、この4誌中3誌は、誌名変更前にはなかった「Information」という語が、誌名変更後に加えられている(残りの1誌には最初から付いている)。

#### IV. 和雑誌の順位

以上は図書館・情報学の洋雑誌に関する調査であったが、最後に和雑誌に関する調査を紹介する。これについては、第二章で述べた斎藤の調査<sup>3)</sup>と、久保田の調査<sup>4)</sup>がある。

斎藤は、日本の図書館・情報学の雑誌6誌を対象に、1976年に発行されたものから遡って50論文を抽出し、その引用文献を調べている。彼の調査では洋雑誌も含めて順位を出しているが、ここでは洋雑誌を除き、和雑誌だけを上位から20誌までリストした(第6表左)。順位がとんでいるところは洋雑誌である。1位は図書館雑誌、2位は図書館界である。

久保田は、第二章で述べたように、慶應大学文学部図書館・情報学科の卒業論文を対象に、その引用文献を調べ、引用数の多い順に和雑誌と洋雑誌に分けてリストしている。ここでは、和雑誌に関して上位20誌を第6表右に示した。1位は図書館雑誌、2位は情報管理である。

まず、どちらの調査でも図書館雑誌が1位である点に注意をひく。この雑誌は日本図書館協会の広報誌で、研究論文は掲載していない。そして、洋雑誌の場合にも、*JCR*で第2位の *Library Journal*(日本語に訳すと図書館雑誌)はニュース的な記事を載せており研究指向の雑誌ではない。また、*JCR*には収録されていないが従来の調査で非常に高い順位を占めている *American Libraries* は、*American Library Association*(米国図書館協会)の広報誌で、ちょうど日本図書館協会の図書館雑誌に相当するが、やはり研究論文は掲載していない。津田らは、*Library Journal* や *American Libraries* の利用度が高いことから、“図書館学寄りの分野では、基礎研究にあまり力が注がれていないように思われる”と指摘しているが<sup>11)</sup>、日本の場合も同じなのであろうか。

次に、上位10誌までで、2つの調査に共通して出てくる雑誌をあげると、図書館雑誌、図書館界、ドキュメンテーション研究、情報管理、現代の図書館、*Library and*

*Information Science*、医学図書館の7誌である。10誌中7誌が一致している。さらに20位まででみると、上記7誌に、学術月報、びぶろず、学校図書館、専門図書館、薬学図書館、科学技術文献サービスの6誌が加わり、20誌中13誌が一致していることになる。このように、洋雑誌の場合と同じく、上位の雑誌、特に上位10誌は調査対象が異なってもたいへんよく一致している。2つの調査だけでは結論は出せないが、少なくとも2つの調査で一致した13誌は、図書館・情報学における和雑誌の基礎的な部分を構成していると言えるであろう。

なお、13誌のうち、学術月報は図書館・情報学固有の雑誌ではない。また、久保田の調査で、週刊読書人、特殊通信、特許管理などの雑誌が現われているが、これは特定の1人または2、3人が大量に引用したために出てきたものである<sup>4)</sup>。

ここで興味深いのは、日本図書館学会の機関誌である図書館学会年報が、久保田の調査では上位20誌に入っていない点である(実は30位にも入っていない<sup>4)</sup>)。斎藤の調査でもあまり高い順位ではない。また、西日本図書館学会の図書館学や旧図書館短期大学の図書館短大紀要(廃刊。現在は図書館情報大学研究報告が出ているが、性格は全く異なる)がどちらの調査にも20位の中に出てきていない。これらの雑誌は図書館学の研究論文を掲載しているが、あまり引用されていないようである。やはり、前述のように、“図書館学は基礎研究にあまり力を注いでいない”のであろうか。

#### V. おわりに

我々自身の研究領域である図書館・情報学の雑誌について、基礎的な雑誌を確認するために、*Journal Citation Reports*を用いてその収録誌の引用度順位を求めた。また、その引用度順位の信頼性を確かめたり、*JCR*に収録されていない雑誌についても調べるために、引用分析やその他の方法で求められた図書館・情報学の雑誌の順位について、これまでになされた調査をレビューした。

調査の方法(引用分析、索引・抄録誌の分析、研究者への質問)によっても、また調査対象の種類(引用のものとなる雑誌の種類、索引・抄録誌の種類、研究者の種類)によっても、その結果には相違が生じるのは当然である。しかし、上位10誌ないし20誌の中には、いくつもの調査で一致している雑誌が多い。これらの雑誌は、図書館・情報学の最も基礎的な雑誌と言えるであろう。たとえ自分の専門領域の雑誌でないとしても、図書館・情

報学全体の研究動向を把握しておくために、これらの雑誌には常に目を通しておくことが必要であろう。

なお、ここでは *JCR* を用いた調査が最新のものであるが、それでも1982年版を利用しており、その後新たに創刊された雑誌についてはふれることができなかった。また、すでに述べたように、1982年以前の雑誌についても、比較的新しく創刊されたものは引用の順位が高くない可能性が強い。たとえば、*Library and Information Science Research* という雑誌は、最初は *Library Research* という誌名で1979年に創刊されたが、*JCR* には収録されていない。1979年の創刊だから他の調査にも出てきていない。しかし、個人的な見解ではあるが、かなり質の高い研究論文が掲載されているように思われる。

もう1つ注意しなければならないのは、ここで検討してきたのは計量的研究だけで、質的な面には何もふれていないことである。計量的にみて上位の雑誌はそれなりに理由があって上位に出てきたのであり、質的にも一応のレベルには達していると思われるが（必ずしもすべての雑誌にあてはまるとは限らないが）、その逆はなりたない。つまり、計量的にみて下位の雑誌が、必ずしも質が低いとは限らない。今回の調査で上位に出てこなかった雑誌の中にも、質の高い、図書館・情報学の基礎的雑誌と言えるものがあると思われる。今後、この種の雑誌に対する調査も必要であろう。

- 1) Johnson, R.D. "The journal literature of librarianship" *Advances in Librarianship*. Vol. 12, p.127-150 (1982).
- 2) Melin, N.J. "The specialization of library pe-

riodical literature; its development and status" *Drexel Library Quarterly*. Vol. 15, p.25-51 (1979).

- 3) 斎藤泰則. "引用分析から捉えた図書館・情報学雑誌群の構造" *Library and Information Science*. No. 18, p.171-193 (1980).
- 4) 久保田昭子. "慶應義塾大学文学部図書館・情報学科学学生の文献利用調査" *Library and Information Science*. No. 14, p.193-209 (1976).
- 5) Brace, W. "A citation analysis of doctoral dissertations in library and information science; 1961-1970" *Dissertation (Case Western Reserve University)*. 146 p. 1975.
- 6) Saracevic, T. "Five years, five volumes and 2345 pages of the Annual Review of Information Science and Technology" *Information Storage & Retrieval*. Vol. 7, p.127-139 (1971).
- 7) Saracevic, T.; Perk, L.J. "Ascertaining activities in a subject area through bibliometric analysis; application to Library Literature" *Journal of the American Society for Information Science*. Vol. 24, p.120-134 (1973).
- 8) Pope, A. "Bradford's law and the periodical literature of information science" *Journal of the American Society for Information Science*. Vol. 26, p.207-213 (1975).
- 9) Hanson, C.W.; Tilbury, P. "Library literature read by Aslib conference attenders" *Journal of Documentation*. Vol. 19, p.63-71 (1963).
- 10) Dansey, P. "Do information scientists read about information science?" *Information Scientist*. Vol. 6, p.107-110 (1972).
- 11) 津田良成ほか. "引用文献からみた図書館・情報学雑誌の類別" *図書館学会年報*. Vol. 26, p.34-44(1980).

付表. Journal Citation Reports の収録誌とその創刊年

---

American Archivist (1938)  
Annual Review of Information Science and Technology (1966)  
Aslib Proceedings (1949)  
Bulletin of the Medical Library Association (1911)  
Canadian Journal of Information Science (1976)  
Canadian Library Journal (1944)  
College and Research Libraries (1939)  
Computer Networks (1977)  
Database (1978)  
Datamation (1957)  
Drexel Library Quarterly (1965)  
IFLA Journal (1975)  
Information Age (1978)  
Information Processing & Management (1963)  
International Classification (1974)  
International Library Review (1969)  
Journal of Academic Librarianship (1975)  
Journal of the American Society for Information Science (1950)  
Journal of Chemical Information and Computer Sciences (1960)  
Journal of Documentation (1945)  
Journal of Education for Librarianship (1960)  
Journal of Information Science (1979)  
Journal of Librarianship (1969)  
Journal of Library History, Philosophy and Comparative Librarianship (1966)  
Journal of the Patent Office Society (1918)  
Library Acquisitions; Practice and Theory (1977)  
Library Journal (1876)  
Library Quarterly (1931)  
Library Resources & Technical Services (1957)  
Library Trends (1952)  
Libri (1951)  
Nachrichten für Dokumentation (1950)  
Online (1977)  
Online Review (1977)  
Proceedings of the American Society for Information Science (1964)  
Program; Automated Library and Information Systems (1966)  
Review of Public Data Use (1973)  
RQ (1960)  
Scholarly Publishing (1969)  
Nauchno-Tekhnicheskaya Informatsiya 1, 2 (1967)  
Scientometrics (1978)  
Serials Librarian (1976)  
Social Science Information Studies (1980)  
Special Libraries (1910)  
Unesco Journal of Information Science, Librarianship and Archives Administration (1947)  
Wilson Library Bulletin (1914)  
Zeitschrift für Bibliothekswesen und Bibliographie (1953)

---